

国際石油開発帝石10年の歩み

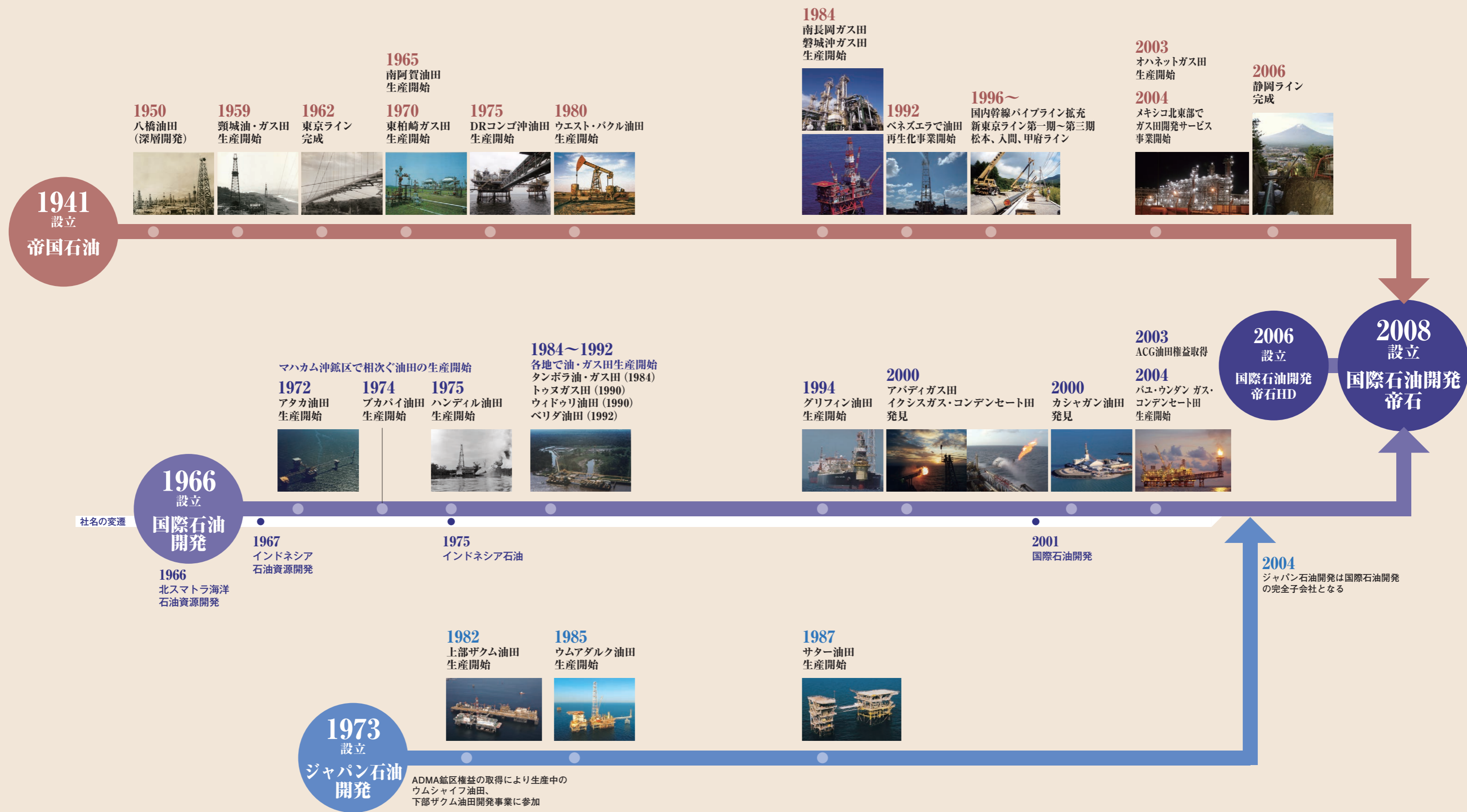
融合・
挑戦 そして未来へ

融合・挑戦 そして未来へ

実現したい夢があった
大規模LNGプロジェクトを自らの手で！
先達の弛まぬ努力で維持してきた産油国との絆と権益を守りたい！
ガスビジネスの飛躍的な展開を！
それぞれの夢を実現するために私たちは統合・合併の途を選んだ
いつしかそれぞれの思いは融合し、大きな挑戦へと力を結集していった
大きなうねりが生まれ、INPEXの旗の下に世界各地から人々が集い
この10年の歩みの中で、私たちは確かな手ごたえを掴んだ
私たちが目指す未来、グローバルエネルギーカンパニーへ



国際石油開発帝石誕生への道のり



発刊にあたって

代表取締役会長 北村 俊昭



当社は2018年10月1日をもって、国際石油開発帝石ホールディングス、国際石油開発、帝国石油の三社合併から10周年を迎えることができました。これもひとえにお客様、株主、取引先の皆様、さらには諸先輩方、役員・社員とその家族の皆様をはじめとした関係各方面から賜りましたご支援とご協力のおかげであり、深く感謝申し上げます。

また、この合併によりまして、さきの三社にとどまらず、ジャパン石油開発や旧石油公団出身の社員等、様々なバックグラウンドを持つ多様な社員を国際石油開発帝石として一つの大きなパワーに結集することができました。

この10年は当社のみならず、石油・天然ガス開発業界にとっても激動の時期でありました。2008年の発足時にはリーマンショックを発端とする米国の金融危機、2014年には米国のシェール革命により原油価格の下落が続き、業界にとっても、当社にとっても非常に厳しい時期となりましたが、全社一丸となって事業の効率化を推進したことにより、当社の経営基盤は強靱になり、原油価格の変動への力強い対応力を身につけることができました。

プロジェクトの方に目を向けると、オーストラリアでのイクシスLNGプロジェクトが2018年に生産を開始しました。日本企業として初めて大規模LNGプロジェクトのオペレーターを務めることで得た経験やノウハウは、インドネシアのアバディLNGプロジェクトをはじめとするプロジェクトで今後生かすことができ、当社の成長に繋がる貴重な財産になりました。

もう一つ大きな成果として、アラブ首長国連邦アブダビ首長国での権益取得・延長が挙げられます。当社は同国において権益取得・延長交渉に長年取り組み、2014年から2018年にかけて、陸上・海上の巨大油田の権益取得・延長を実現することができました。さらに、石油開発・生産事業における技術的課題の解決が評価されて、海上巨大油田である下部ザクム油田のアセットリーダーにも同国政府より任命されました。アセットリーダーとして、主導的な立場で開発作業を今後進め、原油生産能力の向上に努力してまいります。

加えて、国内において、安定的な生産の継続とともに直江津LNG基地、富山ライン等の供給インフラの整備を行い、ガス供給の大幅な拡大を実現することを通じて強靱な経営基盤を築いたところでもあります。

こうした取組みにより、当社は2018年5月に策定した「ビジョン 2040」に示した成長目標の実現に向けた布石を打つことができたと考えております。今後とも一層のご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2019年4月

発刊のご挨拶

代表取締役社長 上田 隆之



国際石油開発帝石ホールディングス、国際石油開発及び帝国石油の三社合併から10周年を迎えるに当たり、当社が目指す大きなチャレンジに深いご理解とご支援を賜りました様々なステークホルダーの皆様、さらに当社の礎を築かれた諸先輩、並びに社員の精練と努力に対して、この場をお借りして、心から感謝を申し上げます。

この10年は原油価格の激動の中で、合併の効果を生かしつつ苦難を乗り越えてきた時代であったと思います。この度の10年史の発刊は、これまでの様々な出来事を鳥瞰することにより、草創の往時に思いを致し、原点を常に忘れまいとの思いを日々新たにしている役割を担っていると考えております。

当社は、この10周年とイクシスLNGプロジェクトの生産開始により、新たなステージを迎えることができました。将来を予測することがますます困難になりつつある今日ではありますが、常に原点を振り返りつつ、しかし、歴史に甘えることなく、更なる飛躍を目指し、新しい時代の潮流に全社一丸となって取り組んでまいります。これにより、エネルギーの安定供給を通じて豊かな社会づくりに貢献するという当社の目標の実現に少しでも近づけるよう努力してまいります。

本社史は、こうした当社の歩みや今後の戦略などを網羅する内容となっております。本社史を通じて、日頃からご愛顧頂いている皆様方の当社に対する理解を深めて頂く一助となりましたら、幸甚に存じます。また、役員・社員一人ひとりの誇りを高め、次の10年、そして20年に向けてさらに邁進していくきっかけとしたいと考えております。今後とも一層のご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。発刊のご挨拶とさせていただきます。

2019年4月